

水素製造プラントを建設

木質バイオ、地熱を活用

清水建設など

清水建設を代表とする共同事業者は、3月30日県庁を訪れ、広瀬勝貞知事に九重町に木質バイオマスと地熱を利用する「バイオマス・地熱資源を活用する低コスト・グリーン水素製造実証プラント」を建設して実証事業を開始することを報告した。環境省が公募した「令和2年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」に、清水建設(株)(東京都、井上和幸代表取締役社長)が代表事業者となり、九重町を実証地として応募し、2020年12月16日付で事業採択されたもの。

広瀬知事に山地徹清水建設代表取締役副社長が「1941年に大分出張所を開設以来、80年にわたり大分で多くの仕事をさせてきただっている。2019年に立てた長期ビジョンでは、建設以外の仕事を3分の1ぐらいに拡大する中で、中核を成すのが再生可能エネルギー。発電事業に取り組んでいるところ。このプロジェクトを通じて知見をしっかりと蓄えて、大分県の中

で実用プラント事業をやっ
ていきたい」とあいさつし
た。
続いて同社の児玉一夫技
術顧問が実証事業の概要を
説明、「ねらいは課題の製
造コストの解決。画期的な
特長は、地熱資源とバイオ
マス資源の両方を使うこと
でCO2の削減と低コスト
化を実現。地域貢献とSD
Gsに寄与する」と話し
た。
建設地の選定では、バイ
オマス資源の豊富な日田市
に近く、日本一の地熱発電
地帯である九重町に決定し
た。同町野矢地区を建設予
定地としている。
実証事業のスケジュール
は、21年12月までに準備を
すませ、22年1月から設置
工事を開始し、22年度には
試運転を開始して実証実験
に入る予定。大分地域にお
ける水素の利用はさまざま
なものがあるが、大分に多
くある半導体製造工場への

利用が大きく期待されてい
る。
広瀬知事は「技術の粋を
集めてやらなければならな
い大実践に、これだけの方
が集まったことに非常に希
望が持てる。脱炭素に大き
く舵を切ったわけで、水素
エネルギーを供給していく
エコサイクルを作っていく
ことは大事。地元企業も
たくさん入っているけれ
ど、エコエネルギー自給率
ナンパーワンの大分県は、

水素エネルギーの時代でも
その座を確保したい。応援
する」と期待を寄せてお礼
を述べた。
なお、3月17日号既報の
県ビジネスプラングランプリ
最優秀賞受賞の(株)ハイド
ロネクストが共同事業者と



報告会の出席者ら

- して参加している。同
号既報のイ
ンタビュー
松本佳久大
分高専教授
が協力者と
して参加し
ており、同
号の記事の
内容が今回
の事業につ
ながってい
る。
- 報告会の
出席者は次
の通り。
- 【代表事
業者】
▽清水建設
(株)代表取
締役副社長
・山地徹
・横山朋樹
▽(株)三和プレス代表取締役
・横山朋樹
【XMO】20年10月29日に菅
総理大臣が「2050年カー
ボンニュートラル」の達成を
目指すことを表明して以降、
日本全体が脱炭素社会の実現
に向けて急速に動き始めてお
り、県も第5期大分県地球温
暖化対策実行計画に「205
0年二酸化炭素排出実質ゼ
ロ」を明記し、地球温暖化対
策を加速していくこととして
いる。
- 【共同事業者】
▽エネサイクル(株)取締役・
岡本高彰、同・田原悠史
▽大日機械工業(株)代表取締役
・鳥巢秀幸、執行役員・直
江登貴夫
▽(株)ハイドロネクスト代表
取締役・永井正章
▽(株)川事務所代表取締役
(北海道大学名誉教授)・市
川勝
【協力者】
▽大分地熱開発(株)代表取締
役・中野勝志
▽(株)クリーン発電大分代表取締
役社長・石田博
▽日本フォレスト(株)常務取
締役・長谷部満之助
▽江藤産業(株)常務取締役・
高木伸好
▽大分工業高等専門学校教
授・松本佳久